

Good Job
グッジョブ!!

現場で働くプロに聞く!!



庭師

Garden Designer

名前
よねおが ふみ こ
米岡 文子 さん(惣領2町内)

会社名
松望園

職歴
15年

「大きな庭がある家」というものはあまり見かけなくなつた昨今でも、庭の持つ「精神的な安らぎを与えてくれる場所」という役割は今も昔も変わっていない。

庭の歴史は古く、奈良時代の日本書紀にその記述があるほど、昔から人々の心のオアシスとして存在していた。今回はそんな庭造りのプロ、庭師について米岡文子さんに話を聞いた。

パワフルな職人 庭師

「庭師をしていた父が体調を崩してから、一緒に現場に出るようになったことがきっかけです。もとは別の会社で事務をしていました。もちろん、最初は重機の操縦すらまともにできませんでした。空いた時間に、畑に積んであった堆肥をコンボで移動させたりして練習しました(笑)」

「庭造りは楽しいですよ」とパワフルに話す米岡さんだが、当然楽な仕事ではない。石を抱えたり、大木の根を掘ったりと、仕事は専ら体力勝負。また、木の

「剪定中は日陰がないので、木のてっぺんで強烈な日差しを浴びることになる。暑くて吐きそうになることもよくありますね」

庭造りの醍醐味、「石」

庭造りの工程の中で米岡さんは、石の組み立てが一番楽しいという。その魅力をこう話す。

「自然石なので2つと同じ顔の石はありませんし、その石が一番良く見える角度、その石が活きてくる組み方はそれぞれ違うので飽きません。山の上や重機が入らない場所へ石を運ぶ時は、滑車やテコなど、昔ながらの方法を用います。『どうしよう』と考えることも楽しいし、乗り越えた先の達成感がたまりません。難易度が上がると余計に燃えてきますね(笑)」

また、定年退職がないことも魅力の一つと米岡さんは続ける。

「職人ですので年季が物言う仕事ですし、身体が動く限り続けられるので、若い人にお勧めの仕事です」



▶(左写真) 県道36号線(第二空港線)沿いにある松望園の土地に造られた庭。庭の反対側には、庭造りに使われる巨大な石が数十個積まれている。

▶(右写真) 高所作業車の上で木の剪定をする米岡さん。切り口にはハケを使って、木が腐らないようにする薬剤が塗られる。